

## 講座その2,

### 1, 竹林整備班のいまは・・・

- ・2004年から継続されてきた竹林の手入れにより、暗い竹藪は姿を消しました。  
ただ伐られると地下茎を伸ばす竹の性質から竹林の面積は拡大し、近年の気温上昇で熱帯がルーツの竹の勢いは増す一方となり、従来の整備方法を見直す必要がありました。
  - ・2022年8月、方針の見直しをテーマに鬼頭、仙石、守口、中村で協議することになり、まず竹林マップを作り、整備すべき竹林と当面放置するしかない竹林を視覚化しました。  
マンパワーの不足を補うためにはチップパーの導入が不可欠と考え、運営委員会、現場打合せを通じて名古屋市に要請した結果、東山公園管理課によりこの年で6回ものチップパー作業が実現しました。活動日を月4回に増やし、筍の発生に合わせて年間スケジュールを変更しながら実施しました。
  - ・2023、24年には筍のコントロールを行いながら、企業のCSR(Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任)活動の支援・協働作業や市民講座にも竹伐を組み入れた結果、拡大はかなり抑制されましたが**竹林の更新(筍を伸ばし若い竹林に蘇らせること)には至っていません。**
- \*特に近年各地で行われている冬期の竹の1m切りについては、私たちも数年前から場所を定めて積極的に取り入れてきました。その結果を今後は検証していく必要があります。

#### ① 冬期の竹の1m切り・・・竹伐ボランティア・フォレストぐんま21の理事長 K さんの経験による手法。

『竹が冬眠状態になる12～2月に竹を1mで切ると春に水と養分を吸い上げて噴きこぼし、その結果地下茎が弱り数年で根元からボキッと抜ける』というもの。渡邊氏は「学問的な根拠はないようだが、作業が抜群に楽になるのでボランティアの竹伐には問題ない」との見解で、当会でも実施しています。

#### ② 4～5mに伸ばした筍の1m 切り・・・福島県の A さんの手法

『筍を4～5mに伸ばしてから1m切りにすると、筍に養分を使った地下茎が弱り、その後の筍の発生が抑制される。柔らかくて簡単に切れる上、先のほうは食用にもなる』(穂先タケノコ)というもの。

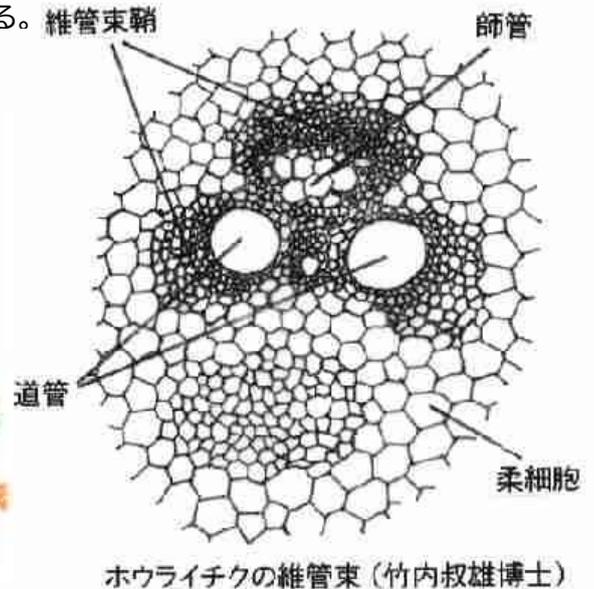
次ページへ→

~~~~~

### <竹も光合成する> 化学式: $6\text{CO}_2 + 6\text{H}_2\text{O} + 688\text{kcal} \rightarrow \text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_6 + 6\text{O}_2$

健康な竹には多くの葉が付き、葉の気孔から空気中の二酸化炭素を取り込み、道管を通じて根から吸い上げた水と日光のエネルギーを受けてデンプンと酸素が作られる。デンプンは師管を通じて地下茎や稈の栄養となり、酸素は気孔から発散され空気を浄化する。竹林を健全に保てば光合成が促進される。

植物の光合成のしくみ



## 2, 竹林整備の実際

### ◎基本方針「20ある竹種を維持し、元気な竹林にする」

#### (1) 竹林とする範囲を決めます。

当地は名古屋市の自然公園であるため、遊歩道などで境界が出来ている場所が多いのですが、奥の雑木林へ拡大しないように境界線を定め範囲をキープします。

#### (2) 竹林区域外に生えている竹は原則1m切りで皆伐します。かいぼつ

- 再生竹(切られた竹の再生のために出現する葉の多い竹でヒコバエ、サバエとも言う)も全て伐り、何度でも毎年伐ることにより光合成を妨げ、次第に地下茎が弱まるようにします。
- 1m 切りにした程の節には常よりも大きい葉が付くので、その葉を全部取り去り光合成をさせないようにします(写真↓左側)。
- タケノコは約2か月間にわたって生えてくるので根気よく皆伐します。  
大型の竹は少し伸ばしてから伐る方法も、今後試していきます(前ページの②)。

#### (3) 竹林区域内の竹は地際じぎわ(地面スレスレ)から伐ります。

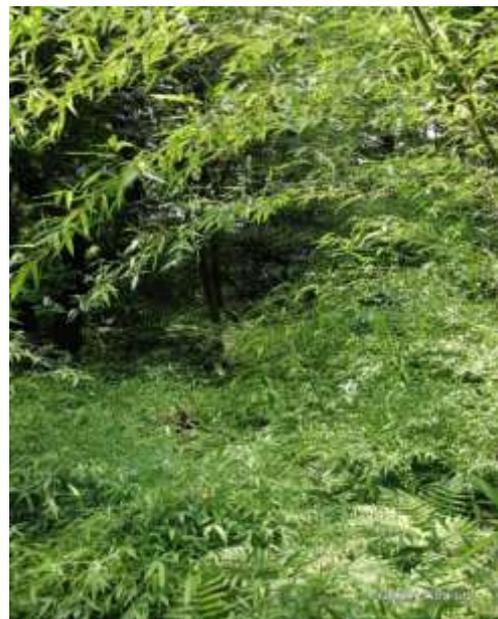
- 細い竹や斜め竹(地下茎が古い)、枯竹(地下茎がすでに寿命)、混み過ぎの竹、を地際から伐ります。
- 境界線近くの太い竹は区域外でも残します。拡大した先端の竹は光合成が盛んで竹林内の地下茎に栄養を送ってくれるからです。
- 再生竹は切らずに残し、光合成させて良いタケノコが出るようにします(写真↓右側)。
- 1m 切りは地下茎を弱らせる手法なので、竹林区域内では行いません。
- タケノコは太いものを優先的に残します。(先発のタケノコのほうが後発に出るものより概ね太くて良質)細いものは良い竹にならないので、蹴とばして除去します。地下茎からの栄養の取り合いに負けたトマリタケノコ(スカスカで後期に出るもの)が意外に多いのでこれも除去します。
- 竹チップを竹林内に敷きこむと土壌の改良になり、有効な肥料にもなります。

太い葉を付ける1m切りトウチク



<竹林としない区域なので葉を取る>

地面を這うハチク林の再生竹



<竹林とする区域なので再生竹を切らない>

### 3, タケノコの発生順に見た竹と笹一覧

|    | 名称              | 特徴                                                                                 | タケノコの時期 |
|----|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 1  | モウソウチク<br>孟宗竹   | 最大の竹で高さ 20m 超、太さ 20 cm のもあり寿命も 20 年。下部節間が短く稈は白っぽい。節が一冠はこれのみ。ソメイヨシノ開花時に筍を出す。食用に優れる。 | 3月末～4月  |
| 2  | ハチク<br>淡竹       | 高さ 15m 太さ 12 cm、稈は口ウ質で白っぽく最も細く裂けるので茶筍に適する。筍は美味。近年開花情報が多い。                          | 4月末～6月初 |
| 3  | ホテイチク<br>布袋竹    | 中型の竹で根元の節間が詰まって膨れ布袋さんに似る。枝が下 40 度に付き特徴ある姿。筍は食用。杖や釣竿に。                              | 5月～6月初  |
| 4  | マダケ<br>真竹 苦竹    | 高さ 20m 太さ 12 cm、稈は緑色が濃く美しく、耐久性・加工性に優れ各種細工に重宝。穂先筍は食用にもなる。                           | 5月～6月末  |
| 5  | トウチク<br>唐竹      | 中～大型の竹で節間が最も長く 80 cm 以上にも。水分多く重く柔らかいので細工には不適。節の枝葉を刈り込み庭園の鑑賞竹とする。ダイミョウチクとも呼ばれる。     | 6～7月    |
| 6  | スズコナリヒラ<br>鈴小葉平 | トウチクと同種で節間が長い。葉に白条が入り、節の周りに葉を繁らせ庭園の鑑賞竹として人気。                                       | 6～7月    |
| 7  | メダケ<br>女竹       | 高さ 5～6m、枝は多く付き各地の河岸に普通に繁る大型の笹で、節は高く稈鞘(皮)は少し残る。粘りがありザルや籠、しの笛や釣竿など細工に適する。            | 6～7月    |
| 8  | ヤダケ<br>矢竹       | 高さ 3～4m で細く伸び、稈鞘(皮)がついた笹。節がとても低く弓矢や釣竿に使われる。葉は長く美しい。                                | 6～7月    |
| 9  | ダイフクチク<br>大福竹   | 高さ 2m ほどの盆栽向きのバンブーだが、下部の稈が膨れたり屈曲したり異形の竹である。枝は黄色く硬い。                                | 6～8月    |
| 10 | ハウライチク<br>蓬萊竹   | 高さ 6～8m のバンブーで株立ちし枝葉が大きく、屋敷の近くに植えて防風林や生垣とする。                                       | 8～10月   |
| 11 | ハウオウチク<br>鳳凰竹   | 高さ 3～5m バンブーで株立ちし稈は非常に細く、葉は細かく鳳凰鳥の尾羽のようで優しい姿となる。生垣に植栽。                             | 8～10月   |
| 12 | スハウチク<br>蘇方竹    | 高さ 3～5m バンブーで株立ちし太さ 5 cm、稈は黄色い中に鮮やかな緑条が入り美しい。庭園竹とする。                               | 8～10月   |
| 13 | カンチク<br>寒竹      | 高さ 3～5m 葉が小さく叢林状になる。稈は濃い紫色で艶があり家具、装飾に人気。筍は細いが食用になる。                                | 9～10月   |
| 14 | シハウチク<br>四方竹    | 2～7m の中型の竹。稈は四角で節に気根があり痛い。葉は多く付き長く垂れて美しい。秋の筍は食用になる。                                | 10～11月  |
| 15 | クロチク<br>黒竹      | 中型でハチクより低く発生初年度は緑であるが 2 年以降に稈が黒くなる。艶あり茶室の庭園、掛け軸、小窓の棧に。                             | 5～6月    |

\*クロチクは近年見られない状態にあります再生を期待しています。

\*表のほか⑩クマザサ、⑪ネザサ、⑫アズマネザサ、⑬オカメザサ、⑭ゴキダケなどの笹が存在します。

\*この表はタケノコの発生を基準にして竹林整備の予定表を作る時に使用できます。